

特別企画：焼酎メーカー売上高ランキング（2022 年）

増収企業、ランキング下位を中心に 10 年ぶりに 20 社超える
～ 霧島酒造が 11 年連続でトップ ～

はじめに

国税庁が発表した 2021 年度の国内酒類消費量は、約 772 万 800 キロリットルで、前年度比 1.4% 減少した。減少するのは 6 年連続。今年 5 月に新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染症法上の位置づけが「5 類」に移行したことで外食産業向けの販売回復の期待感が膨らむものの、酒離れや消費者嗜好の多様化等により依然として酒類業界全体が厳しい状況に立たされている。そんななか、スピリッツ（前年度比 8.6% 増）、果実酒（同 2.1% 増）は、缶チューハイや缶カクテル、梅酒缶などの RTD（Ready To Drink）飲料市場の拡大もあって、それぞれ消費量や伸び率は増加傾向にある。

一方、焼酎消費量は前年度比 4.1% 減の約 69 万 5000 キロリットルで、さかのぼって確認できる 2007 年度（100 万 4700 キロリットル）以降、初めて 70 万キロリットルを割り込んだ。焼酎市場が年々減少傾向で推移しているなか、外食産業需要の回復の波にどれだけ乗れるかが今後の重要なポイントのひとつとなろう。

帝国データバンク福岡支店では、売上高に占める焼酎・泡盛の割合が 5 割以上となった酒類製造業者（焼酎・泡盛以外の事業で計上した売上高も含む）を『焼酎メーカー』と定義。企業概要ファイル「COSMOS2」（約 147 万社収録）より、全国の焼酎メーカーの 2022 年（1 月期～12 月期）売上高をランキング形式により抽出し、上位 50 社の売上高や利益動向などについて集計した。なお、本調査は 2022 年 8 月に続く 20 回目。

調査結果（要旨）

1. 2022 年の売上高ランキングは、「黒霧島」で知られる霧島酒造（株）（宮崎県都城市）が 11 年連続でトップ。2 位は、「いいちこ」ブランドを主力とする三和酒類（株）（大分県宇佐市）。3 位には「木挽 BLUE」などを展開する雲海酒造（株）（宮崎市）が 6 年ぶりに入った
2. 上位 50 社の売上高合計は 2227 億 600 万円と、前年比 7.8% 減少。調整後比較可能な 2005 年以降では過去最低を記録した
3. 上位 50 社のうち「増収」企業は 23 社と、10 年ぶりに 20 社を超えた。売上高規模別にみると、20 億円以下の企業で増収が上回った
4. 税引き後当期純利益が判明した 36 社のうち、「黒字」企業は 30 社
5. 都道府県別にみると、社数は「鹿児島県」が 24 社、売上高合計は「宮崎県」が 786 億 4200 万円で、それぞれトップとなった

1. 売上高ランキング

1 位 霧島酒造 584 億 3700 万円（前年比 2.6%減）

全国焼酎メーカーの2022年（1月期～12月期）の売上高ランキングは、11年連続^{※1}で霧島酒造（株）（宮崎県都城市）がトップとなった。「黒霧島」を主体に、「白霧島」「赤霧島」などを展開している。期中は「黒霧島」を炭酸で割って飲む「黒ッキリボール」を前面に押し出した新CMを全国放送でも実施したほか、Twitter 公式アカウントを開設。コンビニやスーパーなどへのスリムパック供給量は増加したものの、引き続き新型コロナ感染拡大の影響で居酒屋やレストランなど業務用が伸びなかったことから、前年比 2.6%減となった。

2 位 三和酒類 250 億 4500 万円（前年比 41.4%減^{※2}）

三和酒類（株）（大分県宇佐市）は、11年連続で2位をキープしたものの2022年7月期から収益認識に関する会計基準を適用し、酒税や販促費を控除した金額を売上高として計上する会計処理の変更を行った結果、前年比 41.4%減^{※2}となった。“下町のナポレオン”の愛称で知られる「いいちこ」シリーズを主体に、地元大分県産の麦を使用した「西の星」ブランドを展開。関東・関西・中部などの大都市圏をはじめ、北米やアジアなど世界各国・地域に販路を構築している。「いいちこパック」等の紙パック商品や前期から販売を開始している缶製品「いいちこ下町のハイボール」の売れ行きは堅調に推移したほか、テレビCM等による販促を引き続き進めた。一方、長引くコロナ禍の影響で消費マインドの低下がみられたことから、従来基準では 1.9%減（418 億 8700 万円）となった。

3 位 雲海酒造 142 億 6000 万円（前年比 0.5%減）

雲海酒造（株）（宮崎市）は、6年ぶりに3位に浮上した。芋焼酎「木挽BLUE」「日向木挽」、麦焼酎「いいとも」、そば焼酎「雲海」などを主力商品として、九州地方以外では広島県を中心とする中国地方で強固な営業基盤を構築しているほか、関東や関西など幅広く展開している。新型コロナの感染者数減少で自粛気味だった得意先やエンドユーザーに対する訪問営業も再開し、販路拡大に努めたものの、「オミクロン株」による第6波感染拡大で飲食店需要が伸び悩んだこともあって前年比 0.5%減となった。

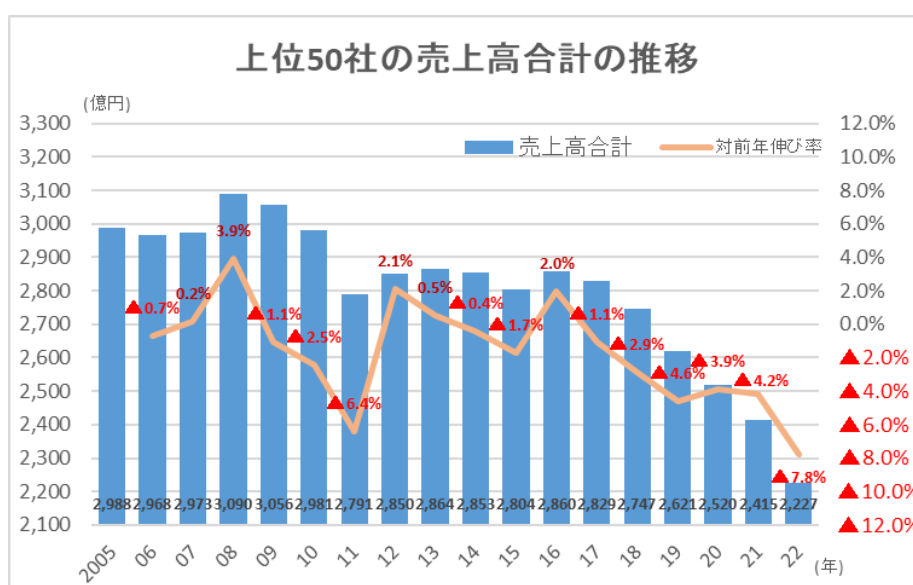
※1 2015年4月に旧・霧島酒造（株）は霧島ホールディングス（株）に商号を変更したうえで持ち株会社となり、新たに設立した霧島酒造（株）（2014年3月設立）が酒類製造部門を継承した。順位は旧・霧島酒造（株）からの通算。

※2 2022年7月期から収益認識に関する会計基準を適用した結果、酒税や販促費を控除した金額を売上高に計上する会計処理を行ったことで、前年比 41.4%減となった。なお、従来基準では同 1.9%減（418 億 8700 万円）。

前回調査から大半の企業が通期でコロナ禍の影響を受けていたが、2022 年調査でも緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用で外出自粛を余儀なくされた結果、飲食店需要の回復は鈍化するなど引き続き新型コロナの影響を受けており、上位 10 社中、トップ 3 をはじめとした 6 社が減収となるなど、トップ 10 では減収企業が増収企業を上回った。なお、前年 5 位の濱田酒造(株) (鹿児島県) が調査開始以降初めて 4 位に入った。

2. 売上高合計推移

オエノングループは 2008 年（2009 年発表分）から 2016 年（2017 年発表分）まで焼酎事業の売上高が 50%を下回り集計対象外となっていたが、2017 年（2018 年発表分）から再び 50%を上回った。そこで、単純比較を行うために、2005 年までさかのぼって同グ



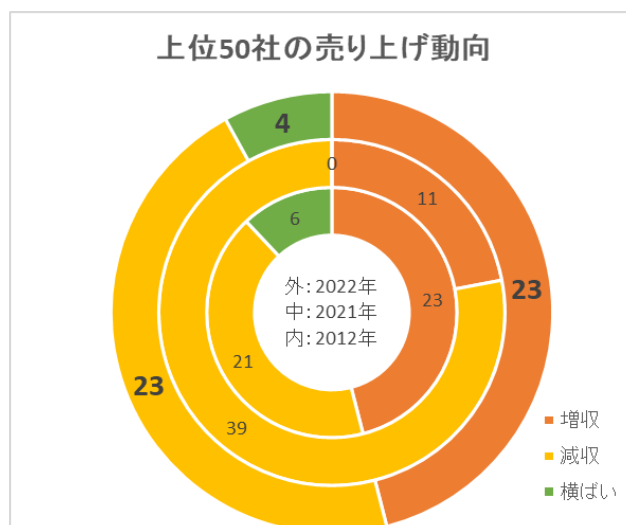
ループの売上高を除外し、かつ、51 位企業の売上高を含めて再集計したものが上記グラフとなる。

しかし、2022 年（今回発表分）はオエノングループが再び集計対象外となったため、今回調査は上記グラフをそのまま利用した。そのうえで、売上高合計を比較すると、2022 年の上位 50 社の売上高合計は、前年比 7.8%減の 2,227 億 600 万円と、6 年連続で減少した。ピーク時の 2008 年（3090 億 1300 万円）から 27.9%減少し、さかのぼって確認できる 2005 年以降の最低を記録した。消費者嗜好の変化によりウイスキーやワイン、リキュール類との競合が激化するなか、新しいニーズの獲得に動いている企業も多いものの、若者をはじめとする酒離れなどで苦戦が続いている。さらに、三和酒類(株)が収益認識に関する会計基準等の適用に伴い、酒税や販促費を控除した金額を売上高として計上し、前年比 41.4%減となったことなどが影響したとみられる。

3. 売り上げ動向

売り上げ動向をみると、「増収」企業が23社（前年11社）と倍増したのは注目すべきポイントだ。増収企業が20社を上回ったのは2012年（2013年発表分）以来、10年ぶりとなり過去5番目に高い水準となった。前回調査は初めて通期で新型コロナによる需要減の影響を強く受けたこともあって、反動増となったことが考えられる。

他方、「減収」が23社（同39社）、「横ばい」が4社（同0社）となった。



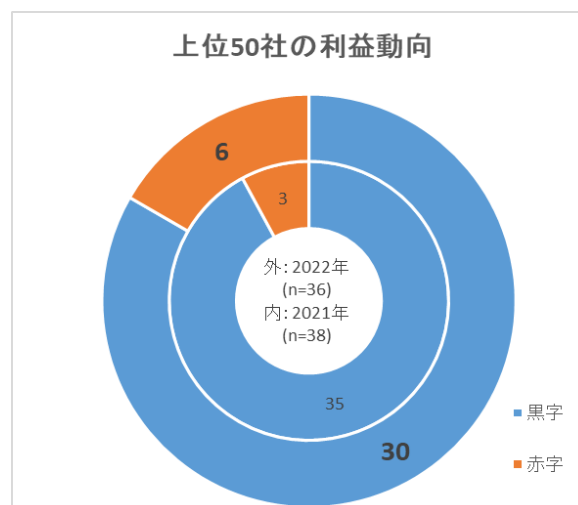
売上高規模別でみると、20億円以下の企業で「増収」が「減収」を上回った。新型コロナ感染拡大以降、規模の大きい企業から”巣ごもり需要”を取り込み、売り上げを確保していたものの、今回調査では、”巣ごもり需要”の恩恵を多く受けていなかった企業が、行動制限などの緩和による外食産業需要の回復基調の追い風を受けたことや値上げを行ったことで、増収に転じたと予想される。

■ 上位50社の売上高規模別の売上動向

売上高規模	増収	減収	横ばい
10億円未満	7	3	2
10～20億円	8	7	2
20～50億円	4	7	0
50～100億円	2	3	0
100億円以上	2	3	0

4. 利益の動向

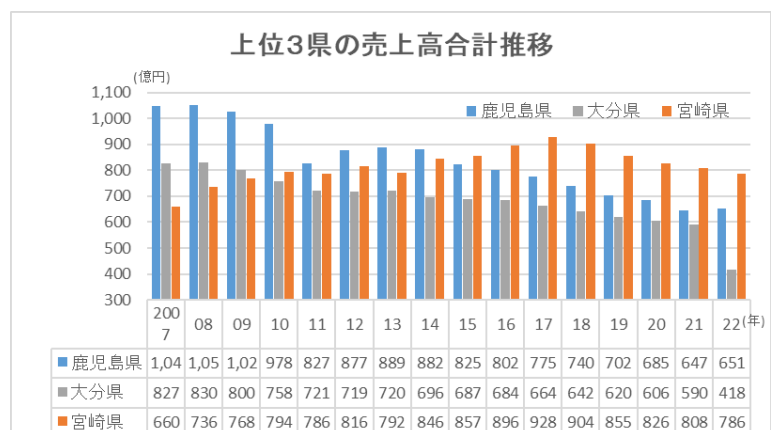
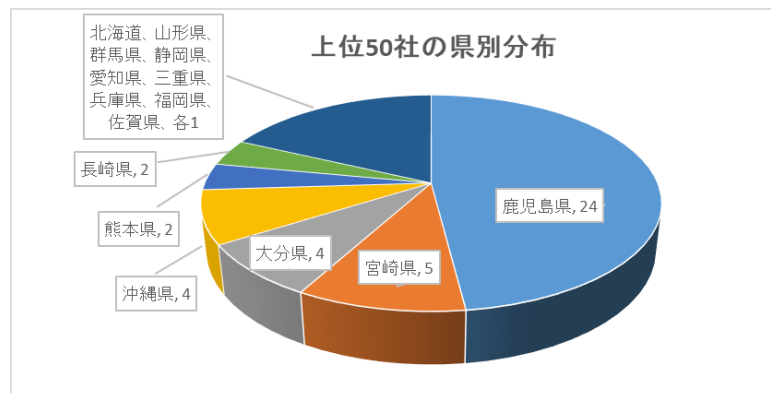
税引き後当期純利益が判明した36社のうち、「黒字」企業は30社で、構成比は83.3%（前年35社、構成比92.1%）となった。一方、「赤字」企業は6社で構成比16.7%（同3社、7.9%）と、前年比8.8ポイント増となった。増収企業は前年から大幅に増加したものの、原油や原材料価格の高騰分を価格転嫁でカバーできていないことで「赤字」となった可能性が考えられる。



5. 都道府県別の分布

売上高上位 50 社を本社所在地別にみると、「鹿児島県」が前年から 2 社増の 24 社でトップ。以下、「宮崎県」が前年から 1 社減の 5 社、「大分県」と「沖縄県」が各 4 社と上位の顔ぶれに変更はなかった。

他方、都道府県別の売上高合計は、「宮崎県」が 786 億 4200 万円 で 8 年連続トップとなったものの、5 社中 4 社が減収となったことで 9 年ぶりに 800 億円を下回った。2 位の「鹿児島県」は上位 10 社中 7 社が減収となったが、社数が 2 社増えたことで、同 0.6% 増の 650 億 7800 万円。3 位の「大分県」は、麦焼酎を主力とする 4 社中 2 社が減収となったことに加え、三和酒類（株）が収益認識に関する会計基準等の適用を行った結果、同 29.1% 減の 418 億 1200 万円となった。



まとめ

2022 年の焼酎メーカー売上高ランキングでは、霧島酒造（株）が 11 年連続で首位となり、同社の売上高は 10 年前の 2012 年（515 億 7200 万円）と比べて 1.13 倍に伸びている。しかし、2 年連続で上位 3 社全て減収となったほか、上位 50 社の売上高合計はピーク時の 2008 年と比べて 27.9% 減となり、前年比でも 7.8% 減となっている。

酒類業界全体をみても、人口減少や少子高齢化のほか、健康志向の高まりによる飲酒の敬遠や量の減少、若者の酒離れといった問題も抱えている。加えて、焼酎業界ではウイスキーを炭酸水（ソーダ）で割ったハイボール、缶カクテルなどの R T D・低アルコール飲料の需要拡大が進んでおり、苦戦を強いられている。2022 年も引き続き、新型コロナの影響により、“家飲み”を選択する消費者は一定数みられ、居酒屋やレストランといった飲食店向け需要は多少の回復はみせた

もののコロナ禍以前とは程遠い状況となっている。

しかし、増収企業は 23 社と 10 年ぶりに 20 社を超え、過去 5 番目に高い水準になったことは注目すべきポイントだ。前回調査と比べて、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用に期中が被っている期間が少なかったことにより、飲食店といった外食産業需要が多少回復したことなどが主な増収要因としてあげられる。特に、売上高が 20 億円以下の企業において、増収企業が減収企業を上回っており、コロナ禍以降、同業他社との競合で“巣ごもり需要”の恩恵を受けられなかった企業から増収に転じている様子が伺える。また、ランキング上位 10 社中唯一 10% 以上増収となった同 8 位の(株)宮崎本店（三重県）では、飲食店需要回復のほか、主力銘柄である「キンミヤ焼酎」の家庭用紙パック製品が好調に推移するなど”家飲み”ニーズを確実に捉えたことなどが業績を押し上げた。他には、海外市場の開拓や新商品の販売、スポーツチームのスポンサーであることを活用したイベント開催などで、売り上げが伸びたとする理由もみられた。

2023 年は新型コロナの感染症法上の位置づけが「5 類」に移行し、飲み会での人数制限がなくなったことなどで、居酒屋を中心に外食需要の回復が大いに期待されている。しかし、原油や原材料価格の高騰のほか、芋焼酎の原料となるサツマイモの実が腐る「基腐病」の拡大でサツマイモが値上がりするなど、製造コストの増加要因も多く残る。依然として、焼酎業界は厳しい状況に立たされていることに変わりはないものの、打開策として、近年、フルーツの香りを加えた焼酎やアルコール度数を下げ、飲みやすさにこだわった商品が若者や女性に一定の評価を受けており、各社とも企画、販売を開始している。このように、業界全体で新しいニーズを創出し、それらを取り込む販売戦略を打ち立てていくことが焼酎ブーム再燃へのきっかけとなるだろう。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク福岡支店情報部 担当：笠維宏

TEL：092-738-7779 FAX：092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

2022年 焼酎メーカー売上高ランキング 上位50社

(売上高は推定を含む)

順位	前年 順位	商号	所在地	主カブランド(※は甲類)	主な原料	創業	設立	決算 月	売上高 (百万円)	前年比 売上高 伸び率
1	1	霧島酒造(株)	宮崎県都城市	黒霧島、白霧島、赤霧島、西霧島	芋、麦	1916年	2014年3月	3	58,437	▲2.6%
2	2	三和酒類(株)※1	大分県宇佐市	いいちご、西の星	麦		1958年9月	7	25,045	▲41.4%
3	4	雲海酒造(株)	宮崎市	木挽BLUE、日向木挽、雲海、いいとち	芋、ソバ、麦		1967年11月	9	14,260	▲0.5%
4	5	濱田酒造(株)	鹿児島県いちき串木野市	海童、だいやめ、隠し蔵	芋、麦	1868年	1951年7月	6	13,894	1.1%
5	6	二階堂酒造(有)	大分県日出町	大分むぎ焼酎二階堂、吉四六	麦	1866年	1964年12月	6	13,500	3.8%
6	7	薩摩酒造(株)	鹿児島県枕崎市	さつま白波、黒白波、神の河	芋、麦		1936年6月	6	7,700	▲4.9%
7	8	若松酒造(株)	鹿児島県いちき串木野市	薩摩一、薩州麦、わか松	芋、麦	1719年	1953年9月	6	7,270	▲4.4%
8	10	(株)宮崎本店	三重県四日市市	※キンミヤ焼酎	麦	1846年	1951年3月	9	7,262	18.2%
9	9	本坊酒造(株)	鹿児島市	桜島、※宝星	芋、サトウキビ	1872年	1955年10月	6	6,531	▲2.4%
10	11	高橋酒造(株)	熊本県人吉市	白岳、白岳しろ	米	1900年	2001年11月	9	5,927	4.5%
11	12	美峰酒類(株)	群馬県高崎市	※司、上州むぎ焼酎	麦	1941年	2007年10月	9	4,382	▲3.7%
12	13	大口酒造(株)	鹿児島県伊佐市	伊佐錦、黒伊佐錦	芋		1970年8月	3	4,019	▲3.5%
13	14	神楽酒造(株)	宮崎県高千穂町	ひむかのくろま、天孫降臨、天照	麦、ソバ、芋		1954年11月	9	3,082	▲0.7%
14	15	鷹正宗(株)※2	福岡県久留米市	めちやうま、ごりよんさん、ばっかい	麦、芋、ソバ、米		1935年11月	12	2,701	▲7.1%
15	17	岩川醸造(株)	鹿児島県曾於市	おやとさあ、ハイカラさんの焼酎	芋、麦	1870年	1922年11月	3	2,440	▲0.4%
16	18	長島研醸(有)	鹿児島県長島町	さつま島美人	芋		1967年2月	9	2,372	2.4%
17	19	(株)都城酒造	宮崎県都城市	あなたにひとめぼれ、みやこんじょ	芋、麦		1956年2月	8	2,288	0.7%
18	16	三岳酒造(株)	鹿児島県久島町	三岳	芋		1949年11月	9	2,270	▲12.4%
19	22	新平酒造(株)	鹿児島県大崎町	大金の露、金計佐	麦、芋	1904年	1988年6月	6	2,161	9.5%
20	20	札幌酒精工業(株)	札幌市	※サッポロソフト、喜多里	芋		1933年10月	9	2,128	▲2.5%
21	23	宗政酒造(株)	佐賀県有田町	のんご、黒泉山	麦、芋		1985年5月	8	2,005	5.0%
22	26	福井酒造(株)	愛知県豊橋市	※自遊自在、千年浪漫	サトウキビ・酒粕	1912年	1948年10月	9	1,988	6.9%
23	21	町田酒造(株)	鹿児島県龍郷町	里の曙	サトウキビ		1983年10月	3	1,912	▲5.3%
24	27	(株)奄美大島開運酒造	鹿児島県奄美市	れんと、紅さんご	サトウキビ	1954年	1998年2月	9	1,856	5.0%
25	25	老松酒造(株)	大分県日田市	閨魔、麴屋伝兵衛	麦	1789年	1973年12月	3	1,767	▲5.5%

※1 三和酒類(株)は、2022年7月期から収益認識に関する会計基準を適用した結果、酒税や販促費を控除した金額を売上高に計上する会計処理を行ったことで、前年比41.4%減となった。なお、従来基準では同1.9%減（418億8700万円）。

※2 鷹正宗(株)は、2023年6月1日に福岡地裁へ民事再生法の適用を申請し、同9日に再生手続開始決定を受けている。

2022年 焼酎メーカー売上高ランキング 上位50社

順位	前年 順位	商号	所在地	主カブランド(※は甲類)	主な原料	創業	設立	決算 月	売上高 (百万円)	前年比 売上高 伸び率
26	24	田苑酒造(株)	鹿児島県薩摩川内市	田苑	麦、芋	1890年	1976年6月	6	1,749	▲7.9%
27	29	(株)久米島の久米仙	沖縄県久米島町	久米島の久米仙	米	1949年	1993年7月	12	1,732	2.3%
28	28	ヤエガキ酒造(株)	兵庫県姫路市	※甲(カブト)、あらし	米、麦	1666年	1962年12月	9	1,582	▲8.0%
29	30	八鹿酒造(株)	大分県九重町	銀座のすずめ、なしか!	麦	1864年	1949年11月	9	1,500	4.9%
30	34	まさひろ酒造(株)	沖縄県糸満市	島唄、海人	米	1883年	1965年8月	8	1,430	14.4%
31	39	白玉醸造(株)	鹿児島県錦江町	魔王、白玉の露	芋	1904年	1953年2月	3	1,420	1.4%
32	35	小鹿酒造(株)	鹿児島県鹿屋市	小鹿	芋、麦		1971年8月	7	1,313	5.2%
33	31	(有)比嘉酒造	沖縄県読谷村	残波	米	1948年	1985年8月	2	1,300	▲3.0%
33	36	(株)奄美大島にしかわ酒造	鹿児島県徳之島町	島のナポリオン	サトウキビ		1980年4月	9	1,300	1.6%
35	36	佐藤酒造(有)	鹿児島県霧島市	佐藤、さつま	芋、麦	1906年	1952年4月	5	1,200	0.0%
36	32	玄海酒造(株)	長崎県杵岐市	むぎ焼酎杵岐、一丈園いき	麦	1900年	1985年2月	4	1,192	▲7.8%
37	33	萬世酒造(株)	鹿児島県南さつま市	薩摩萬世、蔵多山	芋	1899年	1985年11月	6	1,180	▲7.3%
38	40	千寿酒造(株)	静岡県磐田市	千寿、稲泉	米	1902年	1983年11月	9	1,000	0.0%
39	42	(株)金龍	山形県酒田市	※爽、※爽金龍	サトウキビ		1950年4月	9	850	13.3%
40	41	さつま無双(株)	鹿児島市	さつま無双、くろはち	芋、麦		1970年10月	6	775	▲5.7%
41	42	大海酒造(株)	鹿児島県鹿屋市	さつま大海	芋		1975年6月	6	750	0.0%
42	45	大隅酒造(株)	鹿児島県曾於市	大隅	芋、麦		2005年9月	12	700	16.7%
43	44	(株)霧島町蒸留所	鹿児島県霧島市	明るい農村	芋		1977年11月	9	667	7.6%
44	48	杵岐の蔵酒造(株)	長崎県杵岐市	杵岐っ娘、杵岐の島	麦		1984年5月	9	594	10.8%
45	46	高千穂酒造(株)	宮崎県高千穂町	高千穂、わかむぎ	麦、米、ソバ	1902年	1976年2月	3	575	▲3.4%
46	-	(株)恒松酒造本店	熊本県多良木町	米一石、墾天使	芋、米、麦	1917年	2001年12月	3	562	7.7%
47	47	若潮酒造(株)	鹿児島県志布志市	さつま白若潮、さつま黒若潮	芋、米		1968年8月	7	560	▲1.8%
48	48	新里酒造(株)	沖縄県うるま市	かりゆし、古酒琉球GOLD	米	1846年	1950年10月	6	539	0.6%
49	51	喜界島酒造(株)	鹿児島県喜界町	喜界島、キャブテンキッド	米、黒糖		1967年5月	9	520	0.0%
50	-	国分酒造(株)	鹿児島県霧島市	さつま国分、フタミゴオレンジ、いも麹芋	芋		1970年7月	9	519	24.5%
参考 51	50	井上酒造(株)	宮崎県日南市	飴肥杉、櫻泉	芋、麦、デーツ	1894年	1976年10月	6	518	▲2.6%